

平成30年度一般会計決算

歳入決算額 474億3,267万円 (前年度差 1,176万円増)
 歳出決算額 458億4,129万円 (前年度差 3億 950万円減)

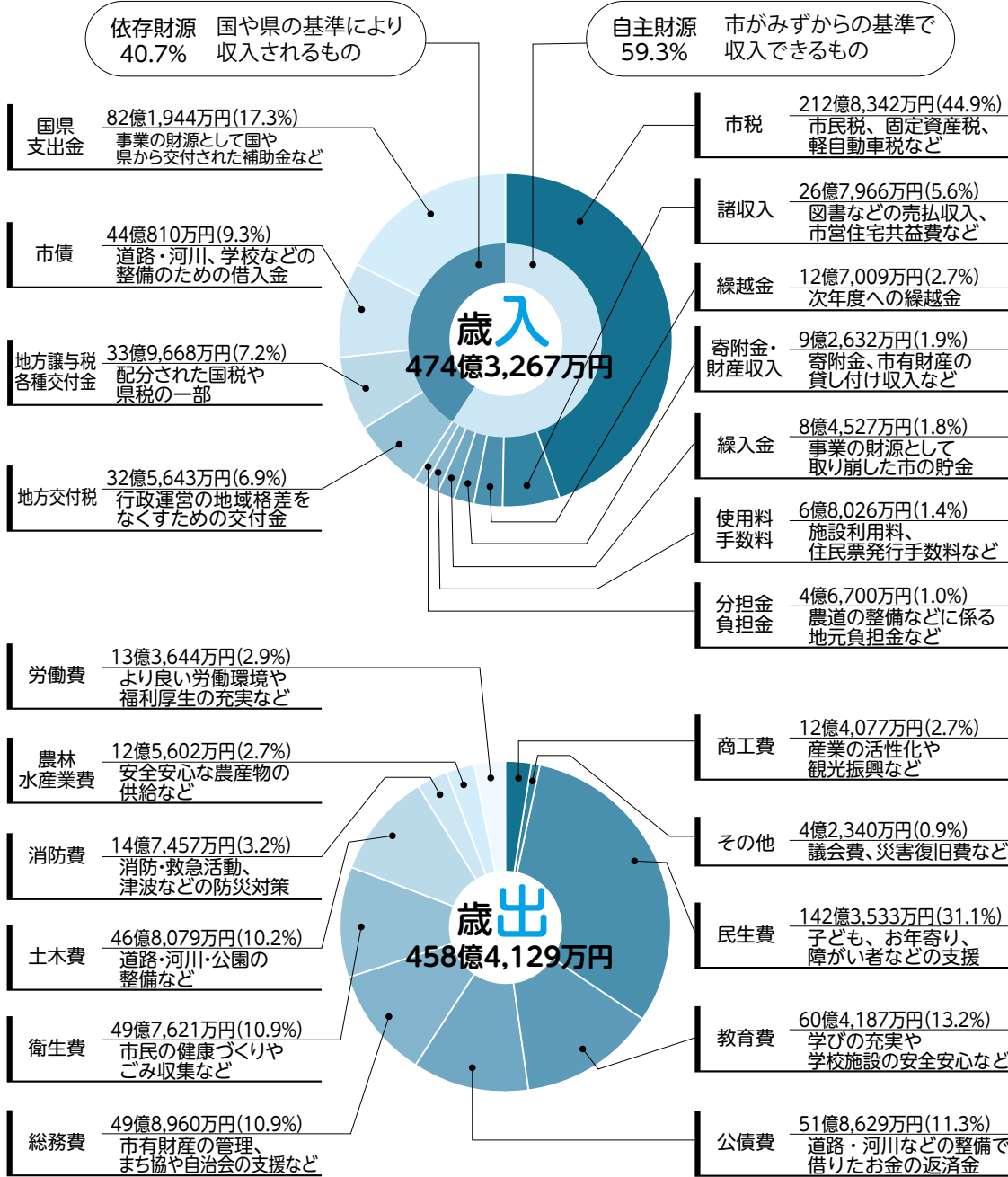
差引額 15億9,138万円

実質的な収支として、14億773万円の黒字決算となりました。

平成30年度

決算報告

平成30年度一般会計・特別会計・水道事業
 会計の決算がまとまり、9月市議会定例会で
 認定されましたのでお知らせします。
 (問) 財政課 (☎21-1197)



平成30年度に実施した主な事業

<p>粟ヶ岳世界農業遺産 茶草場テラス建設事業</p> <p>総額1億5,007万円 のうち1億965万円</p>	<p>おおさかこども園 整備事業</p> <p>11億1,136万円</p>	<p>ブロック塀など 耐震改修事業</p> <p>1,071万円</p>	<p>小中学校など 空調設備整備事業</p> <p>総額13億1,000万円 のうち4億6,106万円</p>	<p>南北幹線道路 整備事業</p> <p>2億2,866万円</p>
---	--	--	---	---

各種会計の決算額

市には、一般会計のほか14の特別会計と1つの企業会計があります。これらを全て合わせると、歳入総額は775億3353万円、歳出総額は753億5689万円です。

会計	区分	歳入(収入済額)		歳出(支出済額)		差し引き A-B	
		A	対前年比(%)	B	対前年比(%)		
一般会計		474億3,267万円	100.0	458億4,129万円	99.3	15億9,138万円	
特別会計	国民健康保険	120億 283万円	87.3	118億 295万円	89.8	1億9,988万円	
	後期高齢者医療保険	12億1,380万円	107.2	12億 483万円	107.5	897万円	
	介護保険	94億5,120万円	100.7	91億6,680万円	99.0	2億8,440万円	
	公共用地取得	5億7,922万円	96.2	4,694万円	40.3	5億3,228万円	
	掛川駅周辺施設管理	1億 543万円	98.1	1億 15万円	94.0	528万円	
	大坂・土方工業用地整備事業	268万円	-	268万円	-	0万円	
	簡易水道	2,555万円	118.7	2,106万円	110.0	449万円	
	公共下水道事業	26億7,750万円	110.5	26億7,750万円	110.5	0万円	
	農業集落排水事業	2億5,177万円	101.3	2億5,177万円	101.3	0万円	
	浄化槽市町村設置推進事業	1億7,772万円	107.6	1億7,772万円	107.6	0万円	
	財産区(上西郷、桜木、東山、佐束)	1,460万円	101.7	1,036万円	96.3	424万円	
	企業会計	水道 収益的収支	31億5,514万円	101.2	27億9,737万円	100.5	3億5,777万円
	事業 資本的収支	4億4,342万円	89.3	12億5,547万円	90.3	△8億1,205万円	
	合計		775億3,353万円	98.3	753億5,689万円	98.0	21億7,664万円

※収益的収支=利用料金などの収入と、受水費や電気料、職員の給与などの支出の収支
 ※資本的収支=企業債などの収入と、建設工事費や企業債の償還金などの支出の収支

掛川市の財政は
全ての指標で健全
なんだね!



財政の健全性を示す5つの指標

「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」の規定により、平成30年度決算に基づく健全化判断比率と公営企業の資金不足比率を算出しました。掛川市は全ての指標において、財政上のイエローカードを示す早期健全化基準を大きく下回っており、財政状況が健全であることがわかります。

掛川市の財政の健全性



① 実質赤字比率

健全!

一般会計等での赤字の比率	H28	H29	H30	対前年度比
	なし	なし	なし	-

掛川市
なし

早期健全化基準 20.0%

11.98%
全ての会計が黒字のため、該当なし

② 連結実質赤字比率

健全!

一般会計等と公営事業会計を合わせた全会計での赤字の比率	H28	H29	H30	対前年度比
	なし	なし	なし	-

掛川市
なし

16.98%
全ての会計が黒字のため、該当なし

③ 実質公債費比率

健全!

一般会計等の借入返済額の比率(家計に例えると、1年間のローン返済額が臨時的な収入を除く年収に占める割合。ローンが家計をどれだけ圧迫しているかを示す。)

	H28	H29	H30	対前年度比
	9.9	9.3	8.6	△0.7

掛川市
8.6%

25.0% 35.0%

新規借入を抑え公債費の抑制に努めました。

④ 将来負担比率

健全!

一般会計等が将来負担すべき実質的な負債残高の比率(家計に例えると、借金総額が年収の何倍になるかを表す。)

	H28	H29	H30	対前年度比
	76.8	63.0	53.6	△9.4

掛川市
53.6%

350.0%

一般会計の債務や、新病院など一部事務組合の借入金負担分が減少しました。

⑤ 資金不足比率

健全!

各公営企業会計での事業規模に対する資金不足額の比率

	H28	H29	H30
	各公営企業会計なし	各公営企業会計なし	各公営企業会計なし

各公営企業
資金不足なし

20.0%

全ての公営企業会計において資金不足は発生していません。

※一般会計等とは、一般会計に3つの特別会計(公共用地取得、掛川駅周辺施設管理、大坂・土方工業用地整備事業)を合算したものです。
 ※公営事業会計とは、国民健康保険および後期高齢者医療保険、介護保険、簡易水道、公共下水道事業、農業集落排水事業、浄化槽市町村設置推進事業、水道事業の8会計を合算したものです。